

# 発掘区VI広間1 壁画復元

## 作品について

対象となる壁画は3枚に分かれ、額装展示されています。左からハープを奏でる女性像、中央には弓を構える戦士、右壁面には槍を構える戦士の姿が描かれています。

画面全体には補筆と考えられる縦線状のタッチが描き加えられ、また表面は光沢のある樹脂のような素材で覆われており、後世の修理によるものと考えられます。

## 壁画復元

壁画を所蔵するタジキスタン国立古代博物館にて、高精細撮影、3D計測、色合せ調査を実施し、超高精細画像と壁画表面の詳細な凹凸データを取得しました。計測した3Dデータをもとに作成した展開図を参考に構造体を切削し、その上に石膏と顔料を混ぜたものを数ミリ塗布し、再度表面を切削しました。解像度を高めた画像データをインクジェットプリンタで原寸大に印刷し、成型した構造体に貼り付けていきます。

複製した壁画は壁面に展示することを考慮し、壁画の基礎となる構造体は高密度で軽く切削しやすい素材を用いました。壁画の質感は熟覧調査と試作による比較を繰り返し行うことでよりオリジナルに近いと想定される構造の壁面を制作しました。

印刷用紙提供：株式会社竹尾



タジキスタン国立古代博物館での調査



壁画表面の凹凸を三次元計測する



壁画表面の3Dデータをもとに表面を切削する